



熱田区は どんなまち？

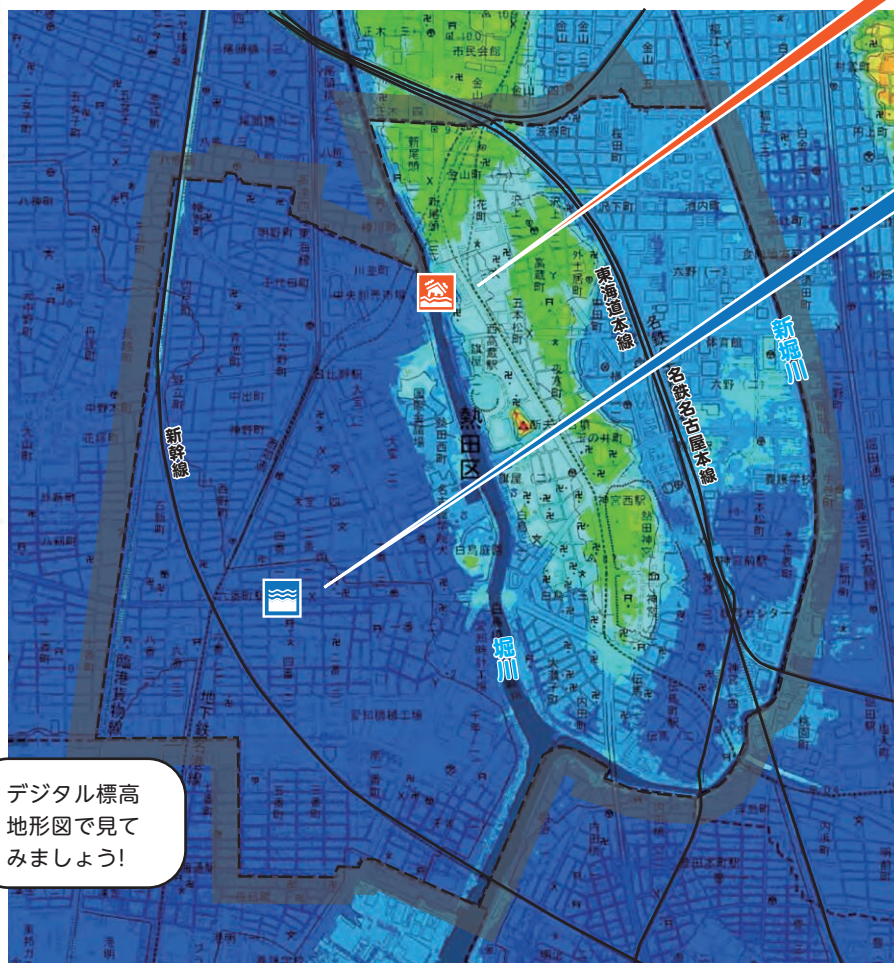
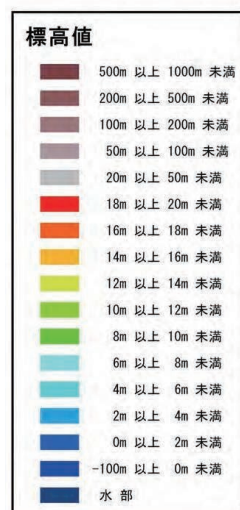
1 熱田区を空から見てみると…

区の中央を流れる堀川により、熱田区は東と西の大きく2つの地域に分けられます。

区の東側は「熱田台地」と呼ばれる台地が広がっており、標高が比較的高く地盤も固くなっています。そのため、津波や洪水など、水に関する災害リスクは比較的低いとされています。

区の西側は、江戸時代まで海だった地域を含んでおり、比較的新しい時代の地層である「沖積層」と呼ばれる地層が広がっています。この沖積層は主に固まっていない泥、砂、石でできており、地盤が弱くかつ柔らかくなっています。また標高も低いため、津波や液状化、洪水、高潮をはじめとした各種災害リスクが高いとされています。

熱田区のデジタル標高地形図



デジタル標高
地形図で見て
みましょう！

出典:国土地理院のデジタル標高地形図に加筆

2 熱田区で過去に起きた災害

【地震】

地震では…

戦後、名古屋市において大地震による被害はありませんが、過去の南海トラフ地震とされている1707年(江戸時代)の宝永地震及び1854年(江戸時代)の安政地震においては、現在の熱田区まで津波が来たという記録が残されています。

また1891年(明治24年)に起こった国内最大級の内地地震である濃尾地震では、熱田区で100名近い死者が出たと言われています。



濃尾地震により倒壊する尾張紡績社屋
(現在の熱田区尾頭町)
出典:明治廿四年十月二十八日大地震図
名古屋市博物館所蔵

【風水害】

1959 年(昭和 34 年)の「伊勢湾台風」

伊勢湾台風は1959年(昭和34年)に日本に過去最も大きな被害を出した台風で、高潮などにより熱田区にも大きな被害をおよぼしました。

熱田区で被害に遭った方の数は64,173人で、これは当時の区の人口の約80%に上ります。

また、平成12年の東海豪雨をはじめとした集中豪雨においても、度々浸水被害が発生しています。



伊勢湾台風により浸水した船方町(当時)
名古屋年センター所蔵

3 熱田区にお住まいの4人に1人は高齢者です！ となり近所で安否確認を！

熱田区にお住まいの方のうち、4人に1人は65歳以上の高齢者です。また、障がい者や妊産婦など、災害時に支援が必要となる方を含む、様々な方が暮らしています。

災害が起こった時、ご自分とご家族の無事が確認できたら、となり近所で安否確認を行い、被害があれば近所で助け合い、自分の身の安全が保てる範囲で初期消火、救出救助、応急手当を行いましょう。

実際に、1995年(平成7年)に起こった阪神淡路大震災では、隣近所の助け合いで多くの方が助かっています。

災害はその瞬間、熱田区にいる方すべてに襲いかかってきます。「おたがいさま」の気持ちで助け合うことで、結果的にご自分とご家族、大切な方の命を守ることにつながります。



※令和2年11月1日の推計人口で、熱田区の総人口65,895人のうち16,721人が65歳以上。